

【日本の大学】第48回——立教大学：国際性やリーダーシップを育む

立教大学は東京・池袋に本部がある聖公会系のキリスト教主義に基づく私立大学である。1874年にアメリカ聖公会の宣教師チャニング・ムーア・ウィリアムズ主教が東京・築地の外国人居留地に開いた「立教学校」がルーツであり、最初は、聖書と英学を教える私塾で、わずか数人の生徒が学ぶ小さな学校であった。その後、火災による校舎の焼失で休眠状態となった時期もあったが、1883年には、居留地37番にゴシック風建築のレンガ校舎が出来上がり、「立教大学校」と称した。アメリカ合衆国式のカレッジで、当時、日本最高峰の教育機関は1877年に設立された東京大学とこの立教大学校の2校だけであった。すべて英語の教科書を用い、教員もほとんどが外国人だったという。



米国聖公会宣教師アーサー・ラザフォード・モリス氏の寄付によって建てられたことから、「モリス館」とも呼ばれる立教のシンボル

リベラルアーツの伝統

時は明治時代の前期から中期に当たり、日本の教育は、欧米先進諸国に早く追いつこうと、実利主義の傾向が強く、知識や技術を物質的な繁栄と立身出世の道具とするといった風潮が強かった。立教大学校は、そうした時代の流れとは一線を画す形で、西洋の伝統的なリベラルアーツカレッジをモデルとした教育を展開、その伝統は現在でも受け

継がれている。

大学のオフィシャル・シンボルである楯のマークの中に書かれている PRO DEO ET PATRIA という言葉は「神と国のために」というラテン語であり、立教大学では「普遍的なる真理を探究し、私たちの世界、社会、隣人のために」と捉えて、これを建学以来の教育理念として位置づけている。

以下、立教大学のホームページなどから大学の歴史や現状をみてみよう。

専門学校令によって「立教大学」と称したのは 1907 年で、文科と商科、予科が置かれている。1918 年には築地から池袋に移転し、翌年には本館、図書館、寄宿舍(現在の 2 号館、3 号館)、食堂が落成し、池袋キャンパスとしての歩みが始まった。



2 号館。教員免許など資格を取得するための「学校・社会教育講座」の施設

大学令に基づいた大学として認可されたのは 1922 年。文学部に英文学科、哲学科、

宗教学科、史学科を置き、ほかに商学部と予科が置かれた。

第2次大戦前や戦時中は、日米関係の悪化によって聖公会も大学も軍部などから圧迫を受け、アメリカ聖公会からの経済的独立、米国人総長、理事、教師が相次いで帰国を余儀なくされるなど、存立を脅かされる事態となった。

終戦を受けて1945年の9月には早くも授業を再開し、閉鎖されていた文学部は翌46年春には復活している。

1949年には新制大学として認可され、再スタートした。文学部(基督教学科、英米文学科、社会学科、史学科、心理教育学科)、経済学部(経済学科、経営学科)、理学部(数学科、物理学科、化学科)の3学部でのスタートだった。

その後、次々に新学科や新学部を新設した。文学部に日本文学科を設置し(1956年)、社会学科を廃止して、社会学部(社会学科)として独立し(1958年)、法学部(法学科)を新設(1959年)した。さらに文学部に、心理学科、教育学科(以上63年)、フランス文学科、ドイツ文学科(以上64年)を次々に設けた。

1990年には埼玉県新座市に新座キャンパスを開校した。同キャンパスには98年に観光学部とコミュニティ福祉学部を開設されている。



ドローンで撮影した新座キャンパス

21世紀に入ってから学部開設としては、2006年に経営学部（経営学科、国際経営学科）を池袋キャンパスに、現代心理学部（心理学科、映像身体学科）を新座キャンパスにそれぞれ開設。08年には異文化コミュニケーション学部を池袋キャンパスに設置しており、現在は10学部、27学科、8専修、1コースとなっている。

文学部は現在、キリスト教学科、文学科、史学科、教育学科からなり、文学科の中には英米文学、ドイツ文学、フランス文学、日本文学、文芸・思想の5専修に分かれている。文学部の教育・研究活動は、「人文学」または「人文科学」という言葉で表される。人間及び人間に関わる諸分野を多角的・総合的に考察し分析していく学問体系である。学科や専修の枠を超えて学べる柔軟性のあるカリキュラムを編成している。

異文化コミュニケーション学部は、コミュニケーションの基本となる日本語と英語の力を徹底的に鍛えるとともに、さらにもう一つの言語とその文化について学び、さまざまな立場や視点から他者を理解するための力を身につける。原則全員参加の海外留学や、企業や地域との連携など、理論と経験を結び付ける実践的な学びで、実社会で生きるコミュニケーション力を磨く。最も新しく設置された学部であり、他の大学にはない異色

の学部で定員が少なく、経営学部と並んで立教大学の中で人気のある学部である。



第一食堂前の藤棚

観光教育の草分け

21 世紀最大の成長産業と言われる観光の重要性にいち早く着目し、日本の観光教育の草分けと言われるのが観光学部である。観光を「ビジネス」「地域社会」「文化現象」の三つの切り口を軸に総合的に学ぶ。経営学、経済学、地理学、社会学、人類学などの幅広い専門分野を身につけ、複雑化する観光を多面的に分析する力を養う。観光学科と交流文化学科の2学科である。

コミュニティ福祉学部は「コミュニティ(社会組織)」と「ウェルビーイング(良き人生、良き生活)」の在り方を考え、新しい福祉社会の構築を目指すための学びの場である。福祉を広い視野で捉えるための複合的な学びと、現場を体験するフィールドスタディ、さらに思考力と実行力を同時に養う学修体系で、福祉マインドを身につけ、社会の課題を解決する力を養う。コミュニティ政策学科、福祉学科、スポーツウェルネス学科の3学科で学びを深める。

現代心理学部は、心、身体、映像を総合的・多角的に追究し、現代に即した新しい人

間学を学ぶ。人間のあらゆる営みに関連する人間の心理を、実験や行動観察、調査などから得たデータをもとに統計的に解析していく心理学科と、映画、テレビ、写真、演劇など多彩な表現行為の実際と理論的基礎を追及する映像身体学科の2学科で構成する。

大学では創立以来、国際性やリーダーシップを育むリベラルアーツ教育を実践している。その具体的な取り組みとして2017年にスタートしたのが「Global Liberal Arts Program (GLAP)」である。GLAPはリベラルアーツを英語で学ぶ。1学年20人が秋の入試で選ばれ、超少数で、自由に学問を探究するリベラルアーツの精神をすべて英語で4年間学ぶ。2年次秋学期から3年次春学期までの1年間、原則、全員が海外の協定校に留学する。異なる環境で多様な文化や習慣に触れ、学ぶことは、自らの可能性を発見し英語によるコミュニケーション能力を向上させ、国境を超えた幅広い人的ネットワークを作ることにつながる。帰国後も引き続き、興味を持った分野をより深く学んでいく。



新座キャンパスの5号館前

英語ディベートを必修科目に

大学は創立150周年を迎える2024年に向けて、「アジアを代表し、世界で際立つ大学」になることを目指して、国際化戦略をまとめている。(1) 海外への学生派遣の拡大 (2) 外国人留学生受け入れの拡大 (3) 教育・研究環境の整備 (4) 国際化推進ガバナンスの強化——の4分野を軸に、具体的な取り組みを進める。GLAPもその一つであり、ほかにも、池袋、新座両キャンパスに、外国人留学生と交流できるグローバルラ

ウンジを設置したり、インドネシアなど派遣元の母国で、将来指導者となることが期待される優秀な若手行政官などを留学生として受け入れる国際連携大学院プログラムを推進したりしている。

将来、社会を牽引していく柔らかなリーダーシップを育むための三つの仕組みも用意している。全学部生を対象にした「グローバル・リーダーシップ・プログラム」がその一つ。企業や団体の提示するプロジェクト課題に少人数のグループワーク形式で取り組む。

二つ目は、経営学部のリーダーシップ教育だ。経営学部では、少人数で課題に取り組み、多様なバックグラウンドを持つ仲間と議論しながら考えをまとめ、発表する。学生はその中で、自分の強みを発見し、リーダーシップを身につけている。

三つめは、社会貢献活動を通じた「立教サービスラーニング」という学びの場である。体験学習を通じて社会の担い手としてのシティズン・リーダーシップを磨く「サービスラーニング」を全学的に展開している。キャンプやボランティアなどの社会貢献活動を通じた学びを、正課事業として導入している。



卒業式

2020年度からは新入生全員が必修の「英語ディベート」の授業も始めている。

学生数は学部が18855名（うち女子10396名）、大学院が1135名（うち女子474名）、留学生数は730名（うち中国392名、韓国217名）（以上2021年10月現在）。教員数は大学、大学院合わせて2537名である。（以上2021年11月現在）

総長は西原廉太氏である。京都大学工学部金属工学学科を卒業、聖公会神学院修了、立教大学大学院文学研究科組織神学専攻博士課程（前期課程）修了。2000年立教大学文学部キリスト教学科助教授となり、同教授、総長補佐、副総長などを経て2021年4月から現職。専門は、アングリカニズム、エキュメニズム、組織神学、現代神学である。

日文：滝川 進

写真：立教大学HP&FaceBook